

3月11日、未曾有の大震災により、翌週に開催予定の本映画祭も延期を余儀なくされました。震災によって、私たちはこれまでの暮らしや社会の在り方の根本的な見直しを迫られています。

「持続可能な社会を考える」、社会、経済、文化あらゆる分野におよぶこのテーマを、12本のドキュメンタリーを通して考えてみたいと思います。



©2008「大丈夫であるように」製作委員会

大丈夫であるように—Cocco終わらない旅—

是枝裕和監督/2008年/107分/日本

2007年11月、デビュー10周年を記念したライブツアーをスタートした歌手のCocco。ツアーの合間に訪れた神戸の慰霊と復興のモニュメントの前で曲を書き、青森では核燃料再処理施設問題で揺れる六ヶ所村の少女と心を通わせる。沖縄で育った彼女が歌に突き動かされる理由とは一体何なのか。



©「沈黙を破る」

沈黙を破る

土井敏邦監督/2009年/130分/日本

2002年春、イスラエル軍のヨルダン川西岸侵攻作戦のなかで起こったバラータおよびジェニン難民キャンプの悲劇。カメラは破壊と殺戮にさらされるパレスチナの人びとの生活を克明に写し出す一方、自らの加害行為を告白するため写真展を開催するイスラエルの元兵士たちの勇気ある行動を追う。

— 2009年 第83回キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位
— 2009年度 日本映画ペンクラブ賞文化映画部門第1位



©Visit Films

夏の草原

リン・トゥルー、ネルソン・ウォーカー監督/2010年/85分/中国・米国

最も高く、寒く、貧しく、遙かに遠いと中国人が言うチベット東部の草原に暮らす若い遊牧民のカップルと幼い娘をカメラで追ったドキュメント。都会生活への憧れを抱きながらも、そうした華やかな暮らしと一線を画し、辛い厳しい生活に耐える彼らのすばらしい笑顔が心に残る。

— 2010年 第23回東京国際映画祭Natural Tiff部門招待作品



©Red Light Films, Inc. 2004

未来を写した子どもたち

ロス・カウフマン監督/2004年/85分/米国

インド第2の都市コルカタ。売春窟で生まれた子どもたちの将来には親の仕事に継ぐ以外の選択肢はない。写真家ザナは売春窟での撮影を続けるうちに、子どもたちにカメラを与え写真教室を開くことを思いつく。初めて写真による表現の可能性を知った子どもたちは、将来に夢と希望を抱くが…。

— 2005年 米国アカデミー賞最優秀長編ドキュメンタリー賞受賞

● オリジナルセレクション



©桜映出版社

いのち耕す人々

原村政樹監督/2006年/100分/日本

30年以上前から有機農業に取り組み食の安全を实践してきた山形県高島町の農家の記録。この町で起きた農業空中散布反対運動を発端に、農業体験に来た人や脱サラで農業を始める人に向けて農業の大切さを伝える農家の人々。理想的な農業のあり方を通して、食べものの大切さを気付かせてくれる。

— 2006年度 文化庁映画賞文化記録映画優秀賞受賞



©大宮映像製作所

ただいま それぞれの居場所

大宮浩一監督/2010年/96分/日本

介護制度導入から10年一。その間介護サービスの件数は飛躍的に増えたものの、なお制度の枠組みから漏れてしまう人々がいる現実。カメラは自ら理想とする介護を実現しようと努力している三つの介護施設に焦点をあて、昼夜奮闘するスタッフの姿をあたたかい眼差しで見つめる。

— 2010年度 文化庁映画賞文化記録映画大賞受賞



©グループ現代

月あかりの下で ある定時制高校の記憶

太田直子監督/2010年/115分/日本

1学年1クラス、全校生徒120人の埼玉県立浦和商業高校定時制。2002年から卒業までの4年間、生徒一人ひとりに寄り添うように撮られた映像には、家庭や社会のひずみに傷ついた若者たちが悩み、ぶつかり合い、支え合って過ごした日々姿と、果立ってゆく生徒たちの希望が写し出されている。

— 2010年度 文化庁映画賞文化記録映画優秀賞受賞
— 2010年度 日本映画ペンクラブ賞文化映画部門第1位



©ボレボレタイムス社

祝の島

橋本あや監督/2010年/105分/日本

山口県上関町祝島(いわいじま)。瀬戸内海に浮かぶ海の幸豊かなこの小さな島の対岸4km先に、1982年、原子力発電所建設計画が持ち上がった。「海と山さえあれば生きていける。だからわたしの代で海は売れん」という祝島の人々は、以来28年間たゆまず反対運動を続けている。



©グループ現代

六ヶ所村通信No.4 —映画「六ヶ所村ラブソディー」のその後

鎌仲ひとみ監督/2008年/75分/日本

映画「六ヶ所村ラブソディー」が完成した後の2007年8月から2008年2月までの取材スケッチ。六ヶ所再処理工場や核燃サイクル計画の事を知った人々が増えるにつれて、さまざまなアクションが起きてきた。そんな人々がつながり、青森や東京で動き始めた現実にはカメラも動かされていく。

● 特別先行上映



田中さんはラジオ体操をしない

マリー・デロフスキー監督/2008年/75分/豪州

解雇された会社の前で25年以上にわたって抗議活動が続いている田中哲朗さん。彼のウェブサイトを見て興味を持ったオーストラリア人監督は、シドニーから東京へ会いに行く。自分自身に誠実であり続けるために日本社会で闘い続ける、ユーモアたっぷりのタナカ・ワールドが繰り広げられる…。

— 2009年 カナダ国際労働者映画祭ベストインフェスティバル賞受賞
— 2009年 山形国際ドキュメンタリー映画祭ニュードッグス・ジャパン招待作品

● うらやすドキュメンタリーテーク・アンコール上映



©2009.group Low Position

犬と猫と人間と

飯田基晴監督/2009年/118分/日本

町を歩けばあちこちで目にする光景—。散歩中の犬や、路地裏でくつろぐ野良猫たち。しかし、全ての犬と猫が幸せな一生を送れるわけではない。空前のペットブームの影で、日本で処分される犬と猫は年間30万頭以上、一日に1000匹近くが殺されている現実をあなたはどうか考えるか。



©グループ現代

六ヶ所村ラブソディー

鎌仲ひとみ監督/2006年/119分/日本

2004年、青森県六ヶ所村に原子力発電所で使った燃料からプルトニウムを取り出す核燃料再処理工場が完成した。工場稼働に賛成・反対する村人たちは、それぞれの選択しつつも共に生きることを余儀なくされている。そんな人々の交錯する思いが、私たち自身の未来に迫る。

映像を通して知る「浦安」～浦安の過去・現在・未来～ **無料**

浦安に関する記録映像上映+関連ゲストによるトークイベント

■ 上映スケジュール ★ゲスト来場予定(詳細は以下の問い合わせ先もしくはウェブサイトでご確認ください) ※上映スケジュールは変更になる場合があります

6月18日(土)				6月19日(日)			
中ホール		小ホール		中ホール		小ホール	
10:00	月あかりの下で ある定時制高校の記憶 ★	10:00	沈黙を破る ★	10:00	いのち耕す人々★		
12:45	大丈夫であるように—Cocco 終わらない旅—	12:40	犬と猫と人間と ★ (うらやすドキュメンタリーテーク・アンコール上映)	12:25	夏の草原		
14:50	未来を写した子どもたち	15:15	映像を通して知る「浦安」★ 無料	14:25	祝の島 ★		
16:30	ただいま それぞれの居場所 ★	17:00	夏の草原	16:50	六ヶ所村通信No.4 —映画「六ヶ所村ラブソディー」のその後 ★		
18:50	田中さんはラジオ体操をしない ★ (特別先行上映)	18:40	六ヶ所村ラブソディー (うらやすドキュメンタリーテーク・アンコール上映)	18:50	大丈夫であるように—Cocco 終わらない旅—		

入場料	1回券(日時指定)	2回券	1日券	フリーパス(限定販売)
前売	800円	1,400円	2,500円	4,000円
当日	999円(高校生以下500円)	1,700円	3,000円	—

前売券は市民プラザ、文化会館のほか、チケットぴあにて5月28日(土)から販売
※ 2回券、1日券およびフリーパス購入者は、当日受付で配布する整理券が必要となります。
※ チケット代金の一部を被災地の復興資金として寄付させていただきます。

■ 主催・問い合わせ先

浦安ドキュメンタリーオフィス
Urayasu Documentary Office

Tel: 070-5454-1980 Email: info@urayasu-doc.com
ゲスト等の詳細はウェブサイトでご確認ください
www.urayasu-doc.com



浦安ドキュメンタリーオフィスは、社会的に意義のある国内外のドキュメンタリー作品の上映・普及および上映を通じた人的交流の促進を目的に、浦安を中心に活動を行っています。